

# 『臥龍梅』 歳便り

平成二十二年睦月



皆様 明けましておめでとうございます。お正月は如何お過ごしでしたでしょうか。

新聞を開けば、今年は日本の GNP が中国に抜かされそうとか、景気の二番底が懸念されるだとか、JAL が身売りされるだとか、正月早々暗い話題ばかりです。弊社の場合、昨年十二月の売り上げが前年対比 100%を余裕でクリアできましたので、大晦日の晩は枕を高くして寝ることができました。これもひとえに、ご愛飲家、特約店さまのご支援の賜物と感謝しております。とは言え、一寸先は闇と言うくらいで先々はどうなるかわかりません。そんな訳で、今年一年がよい年でありますようにと、蔵人一同を伴って初詣に行ってきました。蔵人は年末年始も郷里の岩手に帰省せず、蔵で越年して頑張っている仕事しておりますので、その慰労も兼ねての初詣です。出かけた先は静岡浅間神社。JR 静岡駅の北西約 2 km の賤機山(しずはたやま)の麓に位置し、市街地の真真中に鎮座しております。地元では**せんげんさん**の愛称で親しまれています。正確には、神武神社(かんべじんじゃ)、浅間神社(あさまじんじゃ)、大歳御祖神社(おおとしみおやじんじゃ)の三社の総称だそうで、一番古い神部神社の歴史は何と約 2100 年前、崇神天皇の御世に遡るのだそうです。わが臥龍梅にとってもご縁のある神社で、7 歳で人質として駿府に送られた竹千代(後の徳川家康公)は、14 歳のときにここで元服式を行ったと伝えられております。1 月 3 日午後、菅原杜氏以下(新婚さんの麴屋、神谷君を除く)蔵人 4 名は年始の挨拶に我が家に寄った後、私の運転で浅間神社に向かいました。静岡市で正月に初詣に出かけるといえばまず定番のスポットですので混雑しているのは予想しておりましたが、思っていた以上の人出でした。神社周辺の駐車場ではいくら待っても駐車できそうもないので、蔵人 4 名を鳥居の前で降ろし、私は数 km 離れた駐車場に車を預けてからタクシーで神社まで戻って皆と合流いたしました。何とか全員が揃ったところで、本殿に参拝してかしこまって醸造祈願し、奉納した臥龍梅の飾り樽の前で記念撮影をしました。これで今年の酒造りもまずは安泰と思われれます。その後は参道を散策しながら繁華街に戻り、ホテルのレストランで新年会を催しました。



蔵人 4 名 自宅前にて



静岡浅間神社にて



静岡浅間神社にて



さて、今月はお待ちかね、静岡県産の酒造好適米、**誉富士**を用いた純米吟醸酒をご案内いたします。在庫を切らしてご迷惑をお掛けしておりましたが、今月の第 3 週から出荷の予定です。今年の**誉富士**はよりインパクトが強く、昨年以上の出来映えと自負しております。どちら様もお見逃しなきよう。

寒さのおりから、おかせなど召ませぬように。

敬具

平成 22 年 1 月 吉日

鈴木克昌